

○ 委員長報告

2月定例本会議で報告された経済企業委員長報告は、以下のとおりです。

令和3年2月定例会

経済企業委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、離職者等への職業訓練についてであります。

このことについて一部の委員から、今年度の離職者訓練の受講状況と就職実績はどうか。また、来年度予定している産業別オンライン職業訓練の狙いは何かとただしたのであります。

これに対し理事者から、新型コロナの影響による離職者の増加を背景に、解雇や自主退職された方など45名が産業技術専門校に入校しており、特に女性が39名とその大半を占めている。受講後の就職状況については、訓練を修了した39名のうち、24名の就職先が決定している。

また、産業別オンライン職業訓練は、離職や休職など不測の事態への柔軟な対応を可能とするために設定する新たな訓練の枠組みであり、通所の必要がない完全オンラインでの受講が可能であることから、時間的な制約のある離職者の早期再就職のほか休業者のスキルアップにも役立つものと考えている旨の答弁がありました。

第2点は、県内ものづくり企業への支援等についてであります。

このことについて一部の委員から、新型コロナの影響が続く中、県内ものづくり企業をどのように支援しようとしているのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県内ものづくり企業の優れた技術力を広く発信するため、新たな掲載企業を募集するなど、スゴ技データベースの充実を図るほか、民間企業の製造現場で豊富な経験を有する人材を連携コーディネータに委嘱し、県内企業の優れた技術と県内外の企業の商品・サービスとのマッチングを行う。また、販路拡大に向け、大都市圏の大型展示会への県ブース出展や、オンラインによるバーチャル展示会の開催などにも取り組むこととしている。

さらに、来年度新たに、製造現場へのデジタル技術導入を促進するため、専門知識を有する県内IT企業とのマッチングを支援し、県内ものづくり企業のデジタルシフトを進めていきたい旨の答弁がありました。

第3点は、県立病院の経営の見通しについてであります。

このことについて一部の委員から、これまで、新型コロナの影響により、病院の経営状況がかなり厳しいと聞いていたが、現時点での経営の見通しはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県立4病院における患者数は、依然として回復しておらず、昨年4月から本年3月上旬までで、前年度に比べ15%程度減少しており、これに伴い診療収入も約30億円の減収となっている。

しかしながら、国による新型コロナ患者受入れに係る財政支援において、病床確保に伴う空床に対する補償制度が創設・拡充され、昨年4月に遡及して適用されることとなったため、この空床補償により診療収入の減収は、ほぼカバーできる見込みとなった。このため、当初、懸念していた大幅な赤字のおそれはなく、黒字になる可能性も見込まれる状況である旨の答弁がありました。

このほか、

- ・コロナ禍における営業活動
- ・労働委員会におけるオンライン活用の取組み
- ・次期県立病院中期経営戦略
- ・県立新居浜病院の整備

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。